

平成 30 年度 学校関係者評価委員会 議事録（1 回目）

実施日：平成 30 年 6 月 26 日（火）10：00～12：00

場 所：学校法人 愛知理容学園 アリアーレビューティール専門学校 2 階 A 教室

出席者：委員 池山英一（アリアーレビューティール専門学校 校長）  
川野公稔（指吸会計センター(株) 名古屋支店 支店長）  
近藤文峰（第一学院高等学校 教諭）  
山田資喜（愛知県美容業生活衛生同業組合 常務理事）  
廣瀬麻美（理容ヒロセ・平成 26 年度卒業生）  
藤原さやか（平成 28 年度卒業生）  
市川千恵子（PTA 役員）

順不同

欠席者：委員 福澤寿和（愛知県理容生活衛生同業組合 理事長）  
中川信子（名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院 校長）  
平成 30 年 5 月 21 日（月）にアリアーレビューティール専門学校にて  
意見等を聴取し会議に報告する。

オブザーバー

森山郁子（アリアーレビューティール専門学校 事務主任）  
山口 孝（アリアーレビューティール専門学校 広報主任）

委員会次第（概要）

- （1）開会
- （2）学校長挨拶
- （3）第 10 回全国理容美容学生技術大会 東海地区大会の告知
- （4）平成 30 年度夏期 学園広報誌の説明
- （5）平成 29 年度自己評価の報告
- （6）平成 29 年度学校関係者評価委員による評価まとめ
- （7）その他意見交換

各評価委員から、自己点検・評価報告に対する質疑、ご意見やご指導を頂いた。  
（詳細は後記のとおり）

- （8）閉会

終わりに、校長から平成 30 年度は第 2 回目を平成 30 年 12 月に行う予定である旨  
の報告。また校長より各委員へ貴重なご意見に対するお礼の挨拶。

## 質疑・討議及び意見交換について

次第に関する質疑を含め、当校に対しての要望、意見等を含め、次のような貴重なご意見を頂いた。

[各評価委員からの質疑・ご意見等及び当校からの回答] (順不同)

### ○山田資喜 委員

本年度に定めた重点目標の国家試験において合格率が全国平均を下回ったと報告があったが、原因は何だとお考えですか?日々の授業風景はどのようなか?中部美容では「学校運営担当理事」(校長以外)が授業確認をしている。先生方はやりにくいと思うが「あの先生、生徒一人に対する話が長いよね」等気付いたことは伝え、後日改善報告がある。評価項目(1)に関して、「即戦力」という言葉があるが、学校側としての見解・認識がしっくりこないようです。学校で学んだことが現場で生かされない。以前からの課題で現場との乖離は難しい問題でサロン側の学校に対する考え方も以前のインターン制とは違うことを理解しないといけないと思う。サロンでの覚え直しが必要。(8)の財務関係で理事会での審議対象が不明瞭との事ですが、中部美容では10万円までは校長決済でそれ以上は理事会審議。予算編成も実務に近い形で行っており、ブレは少ない。理事会も以前は2か月に1回でしたが、今は毎月行っている。(6)の教育環境においては、4月より新校舎がオープンし、4階に多目的ホールがあり、図書も整備され学生が活用している。4階以上の階層に実習室や各教室がある。(7)学生募集ですが、芸能人を使っての体験入学は役員・理事からの動きで行っています。ただ、どの芸能人を呼ぶか等は教職員の意見を聞いています。日本理容美容教育センター「リビッツステーション」の利用率ですが、岡崎校の利用率が高いのは山本理事長・校長の強い意向です。きちんと説明の場を設けています。校長先生の力量ですね。

(学校側): 国家試験に関して美容科では、24名受験し7名が不合格(実技4名、学科3名)、理容科は19名受験し2名が不合格(学科2名)でした。美容科は2年連続全国平均を下回っております。3年前の27年3月卒業生は理容科・美容科ともに100%(両科で45名受験)の合格率で、できていたことができなくなっている。理容科・美容科とも責任者は現在、国家試験監督員も勤めるベテランです。またご存じのように、敢えていえば実技より学科で落ちる場合が弊校としても、また全国的な傾向なのですが、今回は学科より実技の方で不合格者を多く出していました。40歳を超えた方や外国人受験者がいたとはいえ、反省しております。できない学生ばかりに目が行ってしまい、想定外の者が不合格だったりして、日々の授業の進め方や学校として物事の優先順位に問題があるのではないかと考えて

おります。養成しようとする人物像について、資格を取るために必要なことと、サロン現場で求められていることは、必ずしも一致している訳ではないと思います。それぞれ別に学ぶこともあると思います。ただ最終的にサロンワークが一番重要であることは言うまでもないありません。「即戦力」の意味をよく考えて参ります。法人運営は2月と5月は寄付行為により必ず開催されますが、他は必要に応じてという感じで定期開催をしておりません。図書室が1階にあるのですが、教室が2階以上のため、利用者が少ないです。昨年の第三者委員会でも指摘されました。

#### ○廣瀬麻美 委員

先般、学生大会に出場する選手のお手伝いに来ましたが、学生大会に出ない学生も練習会に参加していた。学生のやる気を感じた。(3)教育活動の部分で先生の数が少ないということはないのか?足りているのか?先生が教室に上がってこないことが私の時にはあったが。やる気のある先生とやる気の無い先生の差があるように学生時に感じていた。学生大会でも指導教員だけでなく、役員・学科等外部講師も含めてみんなが「入賞するぞ」という気持ちを持ってほしいと思います。また(3)に関し、「マナー習慣づけ」の言葉があるが、インターン等でもバイトとは違う、社会人としてのマナーをサロン現場からも伝えることができればと思います。

(学校側)：学生大会等の結果に関しては私たちも努力をしておりますが、他校がそれを上回り、残念な結果が続いております。卒業生を含めた全体的な取り組みは初めてであり、進め方の1つの方法だと思います。国家試験でもそうかもしれませんが、日々の授業カリキュラムからの見直しや準備する姿勢も必要かと思っております。学生大会に限らず、1つの取り組みに全員が関心を持つことは重要であり、大会の応援も今まで以上に声援を送りたいと思います。

#### ○近藤文峰 委員

評価項目(7)に関して、体験入学の実施回数ほどのくらいですか?また1回の動員人数はどれくらいですか?第一学院では昨年までは、教職員も学校回りをしていましたが、今年からは学校回り専属の方を採用し、訪問してもらっています。本会議の意見等の共有はどのように図られているのですか。

(学校側)：専属の広報担当者はおらず、(囑託で学校回りやガイダンスに出席をしていただいている方は2名)教員・職員の役割プラスその延長線上で学校の魅力創り等をしている状況です。ただ、今年から在校生の出身高校においては教職員で学校訪問をすることにしました。それも仕事の合間を縫ってではなく(遅くなります

し、一度に多くは回れないので。)適切な時期に適切な学校を効率よく訪問するため、学校を閉めて(生徒休み)一気に全員で訪問しました。(4月27日)体験入学参加者数ですが、平成29年1月～12月は147名で、そのうち高校3年生は53名、出願率は45%でした。どこの学校もそうですが、いかに体験入学に来ていただけるかが大事だと思っています。本会議での教職員の共有は月1回の職員会議(第三水曜日)になると思います。ただ早く議事録を作成して回覧し問題の対処にあてたいと思います。昨年までは職員会議をほとんどしていませんでしたが、今期から50分授業を短縮45分にして学生を帰し、時間をしっかり確保して行っています。

#### ○藤原さやか 委員

評価項目(3)教育活動に関し、インターンのお話が出ているが、学校での学びが職業現場に通じているかは卒業生としても正直よくわからない。インターン期間については1期間おける日数は長くなくてもいいが、色々サロンは見たいと思うので、回数はたくさんあってもよいと思う。学校側もインターン先に「こういう経験をさせてほしい」ときちんと伝えるべきで、ただ行かせればよいというものではない。インターンの成果をどこに求めるのか学校がしっかり決めるべきだと思います。

(学校側):30年度は前年度に比べ、期間も回数も増やしています。授業単位としては、「美容総合技術(理容科)」「美容総合技術(美容科)」のなかでインターン(実務実習)をしています。サロン側の受入れ条件として、理容科生徒受入れの場合は届け出理容所の管理理容師、美容科生徒受入れの場合は届け出美容所の管理美容師の写しをいただいております。要するに管理理・美容師がいるサロン様にお願いをしております。学生が基本的に理容・美容技術に習熟し状況に応じて応用できる基礎能力を身に付けさせることを目標にしているのですが、学生からの声を聞くと「2日間ドブ掃除をさせられた。」等目的とかけ離れたことをされている旨の声を聞きます。サロン側にはアリアール独自の成績評価票の記入をお願いしていますが、もっと具体的に何を勉強させてほしいのか学校からしっかり伝えるよう改善が必要と思います。マイナスのインターンは本人もそうだが、本人からの声を聞いた後輩たちも以降そのサロンにお世話になることはないと思います。弊校の実務実習インターンは理容師・美容師関係法令「理容師・美容師養成施設の教科課程の基準の運用について」に基づき愛知県庁生活衛生課の許可の下、行っています。

#### ○尾関之一 委員

本年度に定めた重点的な項目において、国家試験の結果報告がありましたが、ここまで仕組みができていて合格できないのは、本人に問題もあるのではないかと。インターンシップに関しては、サロンにもよるが忙しい時に来られてもまったく対応できない。

(学校側)：国家試験については、仕組みはあるし、教員も教える内容はよく変更点があるとはいえ、当然わかっている。外部講師を含めて対応を考えないといけないし、教育・指導内容の部分の学生アンケートにおいて、必ずしも良い声があるとは言えない状況です。学校運営全体に言えることですが、運営する上での見方・考え方は職業実践専門課程制度や第三者評価制度を通じてよく分かったと思います。これでもまだわからないと学校関係者が言うようではどうしようもない。基準・観点をしっかり叩き込み、経営していくしか方法はないと思っています。

#### ○市川千恵子 委員

子を持つ親の代表として、評価項目（５）学生支援に関し、就職面接では、何を伝えればいいのかをしっかりと落とし込んでほしい。インターンでは「こういう所で働きたい」と思わせるような内容がいいのではないかと。子どもがインターンから帰ってきて色々サロンでの出来事を話してくれたが、働くモチベーションを感じられる職場体験だったから満足して帰ってきました。

(学校側)：就職してからが人生長いので、学校選び以上に就職先選びは大事だと思います。就職に対する姿勢が学生募集にもつながっていきます。高校生の専門学校を選ぶ基準として就職は上位にきますから。専門学校は本人も高校側も関心は高い。少子高齢化でどこでもよければサロンはいくらでもあるが、学校側の姿勢がインターンやその後の就職活動については、人生にも大きな影響を与えていると思います。

#### ○川野公稔 委員

評価項目（７）学生募集に関し、弊社の新規顧客はご紹介が基本になります。募集体制はどのような形で行っていますか？学校会計も学生数に依存度が高く収入確保からもどのようにお考えですか？

(学校側)：近藤委員のご質問の際もお話ししましたが、学校訪問もやり方を変えて実施したりしています。入学者アンケートより、当校を知るきっかけのトップは「お知り合いから」でそこに向けた取り組みができていないとは言えない。また今年の第三者委員会での指摘ですが、我々の取り組みに対し、「広報していない」ですねと言われました。所詮、当校が広報と言っていることは、第三者から見るとそれは「広報ではない」ということがわかりました。教務の充実云々は当然としても、広報の抜本的な見直しも必要だと思っております。

以上  
記録：山口